

令和3年度公益社団法人鹿児島県栄養士会事業報告

2年目のコロナ禍は、新型コロナウイルス感染症という未知の病に対する不安とともに、収束の見えない暗雲は、県民に想像を超える負荷をもたらし、様々な公的事業や会議が延期や規模の縮小を余儀なくされた。

(公社)鹿児島県栄養士会においても、理事会や研修会をオンサイト(集合型)とオンライン(インターネット)のハイブリッド形式で開催し、感染対策を徹底した結果、研修会や会議での感染者は皆無だった。また、県民への情報発信のツールであるホームページを刷新し、明るいイメージで親しみ易いとの好評を得ることが出来た。

一方、高齢社会における生活習慣病(肥満、高血圧、脂質代謝異常、糖尿病)は増加傾向にあり、疾病の重症化予防や高齢社会に対応する地域包括ケアシステム構築等の必要性が増々高まってきている。そのような中、鹿児島県から委託され作成した「食によるフレイル予防の手引き」を活用しての「ロコモ・フレイル予防啓発促進事業」に延べ10名の管理栄養士を派遣し、食生活改善推進員177名の研修を行った。また、鹿児島市の「すこやか長寿健康支援(栄養改善)事業」に延べ27名の管理栄養士を派遣し407名の高齢者に「低栄養予防」の栄養教育を実施した。糖尿病重症化予防対策に対応できる人材の育成のために2回の研修会を実施した。また、介護報酬の改定に伴い、関連団体との協力関係を構築し、共同の研修会を実施した。特に医療と介護を統合して学ぶリレー研修会は、312名が登録して10回の研修会に参加した。また、(公社)日本栄養士会が主催するオンライン研修にも多数の会員が参加し、県内どこからも参加できるハイブリッド研修が定着し、会員のスキルアップにつながった。

はじめての離島開催を予定して県民公開講座(奄美市)は、感染拡大のため中止せざるを得なかったが、開催の準備を通して地域との絆が醸成され、次年度以降の開催に期待が高まった。「管理栄養士によるクッキング講座」はホームページ上で4回掲載した。食生活の改善を促すための講演会、栄養相談などにのべ137名の講師を派遣した。鹿児島市やいちき串木野市が開催した総合防災訓練等に参加し、災害食等の啓発活動を行った。「栄養110番」は毎週水曜日に電話による栄養相談を実施した。歯と口の健康週間、小児サマーキャンプ、全国糖尿病週間関連行事は中止となった。その他健康づくりに関する関連団体が主催する数多くの事業に参加した。栄養ワンダー2021における栄養週間(8月1日~7日)、世界の栄養課題の解決を目指す東京栄養サミット2021に参加し栄養政策・栄養教育の重要性を再確認した。スポーツ栄養に関する研修会をオンラインで2回開催し、87名が参加した。研究活動としての垂水研究では9回の調査活動と報告会にのべ44名が参加した。